

第14話「思い出せなくても大丈夫」

課題	料理に使う材料の名前を思い出すことができない
ストラテジー	思い出せない言葉のかわりに特徴を並べる
効果	- 相手にそれが何か伝えることができる - 言葉を思い出せなくてもコミュニケーションを続けることができる

<課題>

料理に使う材料の名前を思い出すことができない



スアンは麗にバインセオというベトナム料理の作り方を教えることになりました。しかし、バインセオを作るのに必要な材料の名前が思い出せなくて困ってしまいました。

<ストラテジー使用場面>



スアン: アレは…

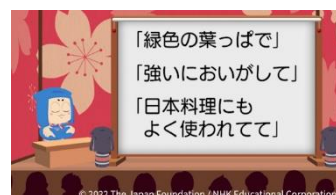
「緑色の葉っぱで、強いにおいがして、日本の料理にもよく使われてて…」

麗: もしかしてシソ？

スアン: そうシソ！シソです！

<スアンが使ったストラテジー>

思い出せない言葉のかわりに特徴を並べる



スアンは料理に使う材料の名前が思い出せませんでした。そのかわりに、「緑色の葉っぱ」、「強いにおいがする」、「日本料理にもよく使われている」という特徴を並べて説明しました。そのような特徴を聞いて、麗はそれがシソのことだとわかりました。

<どんなストラテジー？>

このストラテジーは、#04の「思い出せないところを「なんとか」に置きかえる」ストラテジーと同じように、言葉が思い出せないときや言葉が出てこないときに使えるストラテジーです。「なんとか」は、言葉の一部が思い出せないときに、思い出せないところを「なんとか」に置き換えるというストラテジーでしたが、今回のストラテジーは、言葉が全然思い出せないときにも使えます。特徴を説明することで、思い出せない言葉を相手に伝えることができ、コミュニケーションを続けることができます。

話しているときに名前が思い出せないということはよくあります。これは、外国語で話すときだけではなく、母語で話すときも同じことです。それでも私たちがコミュニケーションを取ることができるのは、特徴や名前の一部を言ってみたり、相手や周りの人に手伝ってもらったりしているからです。今回のストラテジーも、記憶や知識が完璧でなくてもコミュニケーションを続けることができるということがわかる、重要なストラテジーだと言えます。

<どうやって使う？>

このストラテジーを使うときは、思い出せない言葉がどんな特徴なのかを説明します。スアンは、「シソ」の特徴を説明するために「緑色の葉っぱで、強いにおいがして、日本の料理にもよく使われてて…」と言っていました。文型を見てみると、全てテ形が使われています。テ形にはいろいろな使い方がありますが、このように特徴を並べるときにも使えます。

もちろん、このストラテジーを使うときはいつもテ形を使う必要があるというわけではありません。「緑色の葉っぱです。強いにおいがします。日本の料理にもよく使われます。」というように、文の形で特徴を並べても問題ありません。

<もう一歩> 言葉が出てこないときのストラテジー

話しているときに言葉が思い出せない、出てこないということは、外国語でも母語でもよくあります。では、言葉が出てこないときに使えるストラテジーには、他にどのようなものがあるでしょうか。絵を描いたり、スマホなどで画像を検索して見せたり、翻訳してくれるアプリを使ったり、ジェスチャーを使ったり、英語や他の言語を使ったり…など、いろいろあります。相手に伝えるにはこれらのストラテジーを組み合わせるのも有効です。

それぞれのストラテジーには長所や短所があります。例えば絵を描いたり、スマホを使ったりするストラテジーは料理中のスアンにとって使いにくいですし、ジェスチャーで「シソ」を伝えるのも大変です。ですから、あの場ではことばを使うストラテジーが良さそうです。

ストラテジーの長所や短所を意識しながら、どんなストラテジーが使えるかを考えてみるといいでしょう。